

自国の教育環境などについて意見交換する参加者
＝11月26日、福井市の福井大文京キャンパス



福井流教育 アフリカに

8カ国の教員ら 福井大で研修

福井の教育手法を学ぼうとアフリカ8カ国の教育行政官や教員らが来県し、福井大などで研修を受けている。14日まで同大連合教職大学院や附属義務教育学校で視察と意見交換を重ね、指導力向上や授業改善のヒントを探る。

研修は国際協力機構(JICA)と同大学院が協力し、2016年から毎年実施している。今回はルワンダ、エチオピア、エジプトなどの30、50代男女12人が訪れた。

福井市の福井大文京キャンパスで11月26日に行われた開

講式では、同大学院の松木健一研究科長が「覚えるだけでなく、なぜこうなるのか子どもの中から考える教育を提供できたら」と話した。

一行は、児童生徒が主体的に学ぶ教育現場の見学や、学校の垣根を超えて授業を研究し合う「ラウンドテーブル」を通じ知見を深める。ガーナの理科教員トーマス・アルボさん(43)は「多様性に富んだ全ての生徒に対し、共通して教えられる方法を学び、帰国後に普及させたい」と抱負を語った。

(中野克規)